

中学3年2組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 井上 富美子

幼児とのかかわり方について、保育体験学習をもとにグループや全体での話し合い活動を取り入れ、互いの考えを聞いたり、意見を出し合ったりする学び合いを行うことは、幼児の年齢や発達段階に合わせたかかわり方を工夫することに有効であったか。

1 題材名 幼児とのかかわり方を工夫しよう

2 授業の構想

(1)「家族・家族と子どもの成長」の内容については、中学校2年生で「自分の成長と家族」「家庭と家族関係」「幼児の成長と家族」を学んできた。幼児の発達と生活の特徴を知り、VTRによる幼児の観察や遊び道具の製作を通して、幼児の遊びの意義を学んできている。中学校3年生では、これらの学習をもとに附属幼稚園での保育体験学習を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫する。

幼児とのかかわりについてアンケートした結果、「あなたは幼児と触れ合う機会があるか」という問いにほとんどの生徒が「あまりない」「ない」と答えている。「たまにある」と答えた生徒は、親戚や近所の子どもと遊んだとの答えが多かった。「保育体験学習で幼児と触れ合う活動を行うことについてどのように思っているか」という問いには、楽しみにしている生徒がいる一方で、うまくかかわれるか不安に思っている生徒もいた。その生徒の多くは、普段幼児と触れ合う機会がなく、どのようにかかわればよいかわからないという理由だった。また、「幼児についてどのようなイメージをもっているか」という問いには、幼児と触れ合う機会が少ない生徒ほど「うるさい」「めんどくさい」などのマイナスイメージがあり、触れ合う機会が多い生徒は「かわいい」「元気・活発」「好奇心旺盛でうるさいと思うほど話す」などプラスイメージが増えてくる傾向にあった。

グラフ1

「あなたは幼児と触れ合う機会がありますか」

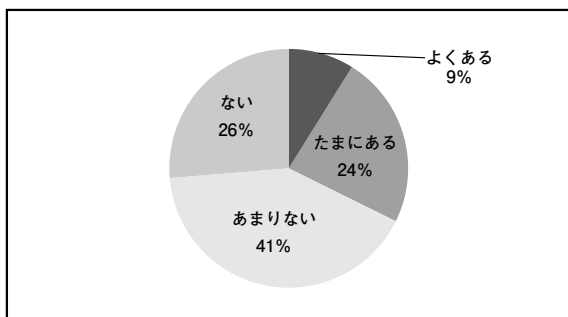


表1

「幼児と触れ合う活動を行うことについてどのように思っていますか」

(人)

	よくある	たまにある	あまりない	ない
うれしい	2	1	0	0
楽しみ	0	3	4	0
よい経験	1	4	6	5
特にない	0	1	1	0
不安	0	0	2	1
大変・嫌だ	0	0	1	3

本学級は、男子17名、女子17名、計34名である。授業中に積極的に発言する生徒は少なく、学習に集中できにくい生徒も一部いるが、学級全体としては落ち着いて学習に取り組める。保育体験学習にあたっては男女混合の学級の生活班を用いて、幼稚園の4クラスに2班ずつ分かれ保育体験学習を行う。班で活動することによって幼児への関心があまり高くない生徒も共に考えたり、かかわったりすることができ、学級全体でも穏やかな雰囲気の中で幼児についての話し合いが行われると考える。

(2)「生活を工夫し創造する能力」(思考力・判断力・表現力)を育成するための具体的な手立てを次のように設定した。

① 題材の工夫

来年度から全面実施される新学習指導要領では、「幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できること」が必修内容になった。本校はこれまでも附属幼稚園で保育体

験学習を行ってきた。これまでは幼児の発達段階に合わせておもちゃを製作し、幼児と一緒に遊ぶ活動が中心であったが、おもちゃの製作に時間がかかり、実際にあそびの場面でうまくかかわれないことがあった。昨年度から遊びだけでなく食事の時間を一緒に過ごす「幼児とのかかわり方」を中心にした保育体験活動にしている。そのため本題材では、生徒と一緒に遊ぶを受容遊びに限定した。受容遊びは与える側が幼児の年齢や発達段階を考えて絵本や紙芝居を選び、実践するときも幼児に合わせた表現方法を工夫して演じなければならない。「幼児とのかかわり方」を工夫するのに適した題材である。また、受容遊びによってクラス全体の幼児とかがかわるとともに、その後の食事を通して幼児一人ひとりとかがかわることができる。幼児期は発達の個人差が大きいので、個々の発達の違いを知り、かかわり方を工夫することで幼児への理解がより深まると考える。

② 展開の工夫

本題材は、課題解決学習を班活動で行う。「遊びの設定」や「計画」を班で行うことで協力して役割分担したり、見通しをもって計画・準備をしたりするなど互いの「工夫し創造する能力」を磨き合うことができる。また、学級全体での学び合いを「計画」の段階で行うリハーサル場面と、「評価・改善」の発表会の場面に取り入れた。リハーサルでは各班が考えた遊びを試行し、互いに助言したり、他の班のよいところを参考にしたりして遊びを作ることを通して幼児とのかかわり方を工夫する。保育体験学習での「実践」後の発表会では、実際に幼児と触れ合った経験をもとに、互いの班のかかわり方をふりかえりながらよりよいかかわり方を工夫していく。

③ 指導の工夫

幼児とのかかわり方を考える手がかりとして、幼稚園の教員と連携して、中学校の授業にゲストティーチャーとして参加してもらい、幼児の生活の様子や年齢ごとの発達の違いについて説明してもらったり、生徒が班で計画した遊びについて幼稚園のクラス担任に相談に行き、助言してもらったりする。学級全体の学び合いの場面では、問題の視点を明確にするために、リハーサルに評価票を用いて観る視点を共通にしたり、発表会での話し合いの問題点を絞って考えさせたりする。また、生徒の思考をゆさぶり深める手立てとして、幼稚園の担任が幼児に行う受容遊びの場面をビデオで見せて、生徒のかかわり方と比較させながらよりよいかかわり方について工夫を高めていきたい。

(3) 本題材では、まずビデオや幼稚園の教員の話から幼稚園での幼児の様子を聞き、自分たちが保育体験活動を行う対象児の年齢とクラスを班ごとに決める。次に班で幼児の年齢や発達段階に合わせて、幼稚園で行う遊びを考える。その際、2年生「幼児の成長と家族」で学んだことをもとに、遊びの特徴や幼児の年齢や発達段階、安全性などを考えて遊びを計画させる。また、遊びは食事の前に行う受容遊びであることや保育体験学習までの準備期間を知らせ、幼児とのかかわり方を中心に遊びを考え準備していくことを伝える。計画にあたっては「計画表」を用いて見通しをもった準備計画が立てられるようにしたい。遊びの準備や練習する過程では、「活動・準備カード」を用いて1時間ごとの班の活動をふりかえり、自分たちで計画の修正ができるようにする。班で試作したり実演してみた後、幼稚園のクラス担任に相談に乗ってもらい、助言をもとに遊びの修正や練習を行うことで実際の幼児の実態に合わせて遊びが工夫できるようにさせたい。保育体験学習の前に学級全体でリハーサルを行い、互いの遊びに対して意見や助言をし合って遊びやかかわり方をさらに改善する。保育体験学習では班ごとに幼稚園のクラスで自分たちが考えた遊びを行い、幼児と一緒に弁当を食べる。その際、遊びの様子や食事についての生活習慣、心身の発達の様子を観察し、幼児の状況に合わせて一人ひとりとかがわっていけるようにしたい。保育体験学習後、その結果をまとめ学級全体で発表し、異なる年齢やクラスの幼児の様子やかかわり方の違いを知り、年齢や発達段階によるよりよいかかわり方を考えさせる。最後に保育体験学習で経験したことをもとに、各自が幼稚園のクラスの幼児に向けて手紙を書き、幼児とのかかわりをさらに深めていきたいと思う。

本時は第4次11時で、前時に保育体験学習の様子を各班が発表した中から課題を見つけ、学級全体で改善方法を考え、よりよいかかわり方を工夫させる場面である。前時の発表の中からうまくいかなかった事例を遊びの種類や年齢によって分けて提示する。うまくいかなかった理由について班で発表し、

共通点を見つけさせたり、同じ遊びをしてうまくいった例や違う年齢で同じ遊びを行った例について発表を聞いて、かかわり方にどのような違いがあるか考えさせる。さらに、「幼稚園教員のかかわり方」のビデオで、幼児の様子に合わせてどのようなかかわり方をしているか見せる。発表を聞くときやビデオを見るときは、動作や言葉がけ、表情などに注目させ、具体的にどのようにすればよいかを考えさせたい。次に、学級全体で学んだことをいかして自分たちの班の遊びを改善する。その際、うまくいかなかった原因を明らかにして、改善方法を自分で行う動作や言葉がけにして、具体的に考えられるようにしたい。ワークシートを活用して発表を聞いているときに気づいたことや考えたことを記録させ、自分の考えを明らかにするとともに、後から思考過程が振り返られるようにしたい。

3 展開計画（全12時間 本時11／12）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	幼児の生活や発達の様子を知ろう。	1 2	・幼児の年齢による発達の違いや生活の様子を知る。 ・幼稚園の先生から幼児の食事や生活の様子を聞く。
2	保育体験学習の計画・準備をしよう。	3 4 5・6 7	・保育体験活動で行う遊びの内容を考え、準備計画を立てる。 ・遊びの試作・実演をする。 （課外：班の代表が幼稚園のクラス担任との相談をする） ・助言をもとに遊びの修正・練習を行う。 ・学級全体で班の遊びのリハーサルを行う。
3	保育体験学習	8・9	・幼児と一緒に班の遊びや昼食を行う。
4	幼児とのかかわり方を工夫しよう。	10 ⑪ 12	・保育体験学習の様子をまとめ、発表する。 ・幼児の年齢や発達段階に合わせてよりよいかかわり方を工夫する。 ◇互いの保育体験学習の経験をもとに、遊びを通して幼児の年齢や発達段階、個人差、状況などに合わせたよりよいかかわり方を考える。 ・保育体験学習をもとに幼児への手紙を書く。

4 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
4	⑪	◇幼児の年齢や発達段階に合わせてよりよいかかわり方を工夫する。	幼児の年齢や発達段階に合わせてよりよいかかわり方を工夫している。	発言 ワークシート	幼児の年齢や発達段階の違いや個人差・状況に合わせて、よりよいかかわり方を工夫している	幼児の年齢や発達段階に合わせてよりよいかかわり方を工夫している。	幼児の年齢や発達段階に合わせてよりよいかかわり方を工夫できない。

5 本時の学習

(1) ねらい

幼児の年齢や発達段階に合わせてよりよいかかわり方を工夫することができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
1. 前時の学習をふりかえる。 ・幼稚園のクラスごとに行った遊びをふりかえり、相違点を比較する。 2. 本時の学習課題を知る。	・前時の班の発表内容を黒板に貼り、遊びのようすが比較できるようにする。
幼児の年齢や発達段階に合わせてよりよいかかわり方を工夫しよう	
3. 幼児とのよりよいかかわり方を考える。 ・遊びの中でうまくいかなかったことについて発表する。 [反応がなかった→早口, 声が小さかった 騒いで聞いてくれない→最初の声がけ] ・同じ遊びを行った班でうまくいった例を発表する。 ・違う年齢で同じ遊びを行った班が発表する。 ・「幼稚園教員のかかわり方」のビデオで見る。 ・自分たちと比較して、かかわり方にどのような違いがあるか考える。 4. 発表や全体で話し合ったことやを参考にして、自分たちの班の遊びを通してよりよいかかわり方を考える。 ・よりよいかかわり方ができるように、自分の班の遊びをどのように改善したらよいか考える。 ・学習したことをもとに自分の考えをワークシートにまとめる。 5. 本時の学習についてふりかえり、成果をまとめる。	・クラスごとに行った遊びを比較しながら、考える観点を明確させる。 ・どのようなかかわり方をしているかに注目して発表を聞かせる。 ・発表から気づいたこと、考えたことをワークシートに記入させる。 ・どのような点でうまくいったのか考えさせる。 ・同じ遊びでも年齢によってかかわり方が違うことに気づかせる。 ◎幼稚園教員が絵本の読み聞かせを行うビデオを見せて、幼児の様子に合わせたかかわり方に気づかせる。 ・発達段階の違いによりどのようなかかわり方をしたらよいか、具体的な言葉がけや動作を考えさせる。 ・他の考えを聞き、自分たち班の考えと比較しながら、幼児に合わせたよりよいかかわり方が具体的に工夫できるようにしたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点 (工夫・創造) —</p> <p style="text-align: center;">幼児の年齢や発達段階に合わせてかかわり方を工夫している。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 発言・ワークシート】</p> <p>支援</p> <p>自分の班のクラスの幼児の年齢や発達の様子を思い出しながら、学級全体で学んだかかわり方を参考にして、遊びの中でどのような言葉がけや動作を取り入れたらよいか考えさせる。</p> </div> ・本時の学習のねらいが達成できたかワークシートで自己評価する。